

2) JA西和賀・いわて生協連携による取り組み 子どもたちの自発性を育む「ポラン農業小学校」

◆活動主体について

ポラン農業小学校は岩手県のJA西和賀といわて生活協同組合の共同事業として1999年に開校された。

JA西和賀は1975年に沢内農協と湯田農協が合併して発足。岩手県の南西部に位置し、奥羽山脈に囲まれた高原性の盆地で中央に北上川の支流の和賀川が流れる。リンドウやユリなどの花卉栽培や酪農が盛んな地域である。一方、いわて生協は「盛岡安く牛乳を飲む会」から発展した盛岡市民生協をはじめとする5つの地域生協と1生協が合併・合流して誕生した。

◆取り組みの経緯

JA西和賀といわて生協は牛乳などの生産者と消費者という立場で30年ほど前から交流があった。いわて生協は1991年から生産者と生協組合員の交流を目的とした産地見学会「みるきいうえいin西和賀」を本格的にスタート。生協組合員は牛乳のふるさとである牧場を訪れたり、JA組合員の下で農業体験を行ってきた。また、生協では子育て協同の実践と調査をふまえて「協同の力で生きる力を育てる教育を」をスローガンに子どもたちの学習教室であるコープスクールを開設するなどの取り組みも積極的に実施してきた。

一方、離農や後継者不足で農業従事者が激変し、さらに過疎化が問題化するなかJA西和賀では地元の子どもたちに地域の自然や文化を、地域が生業としてきた農業をどう伝えていくかが大きな課題となっていた。農家の子どもといっても農作業の経験がほとんどないのである。

JA西和賀の佐々木寛組合長といわて生協の加藤善正理事長の懇談でも、このことが話題となった。農業を体験することで子どもたちに自然や食べ物の大切さ、命の尊さを知ってもらいたいという両者の思いは同じだった。これがポラン農業小学校発足の直接的なきっかけになったのはいうまでもない。1998年、滋賀県のJA新旭町が主催する「しんあさひ農業小学校」を視察。秋には事前

企画として「沢内村秋の学校」を2回開催。1999年、ようやくポラン農協小学校が開校することになった。

開校にあたってはJA、生協のほか地元の教育委員会、農家、大学講師など学識経験者の協力も仰いでいる。学校名の「ポラン」は宮沢賢治の『ポラーノの広場』にちなんだ。

◆活動の概要

活動は4月～翌年3月で年19回開校。これまでは原則として学校が休みの第2・4土曜日が当てられていた。

1年を通じて農作物の植え付けから収穫までを行うが、プログラムは多彩で、米や野菜づくりだけでなく豆腐や味噌、大根漬け、ウインナーソーセージなどの加工品にもチャレンジ。さらにソバ打ち、餅つき、川遊び、スキーなども行う。収穫した作物は子どもたちが自ら料理して食べるが、子どもたちの励みになるようにおみやげとして家へ持って帰ったり、生協祭りで販売したりもする。そば打ちや農業祭など年に数回、親子で参加できるカリキュラムも設けている。

子どもの指導、つまり先生役はJAと生協の職員、この活動に賛同する現役教師や元教師、大学講師たちである。ポラン小学校の校長である谷内博司先生は元美術教諭。「かつての学校教育は子どもたちを地域から遠ざける教育だったかもしれない」という。文部省が提唱する「生きる力」とは異なる真の子どもの生きる力を育めれば、と活動に参加した。

ポラン小学校の精神は「みんなの願いに基づいて運営される学校」。先生たちも「先生」ではなく「ボス爺」「ジャンボ」など子どもたちがつけたニックネームで呼ばれている。子どもたちは「ニコニコ村」「元気村」など4つのグループに分かれて活動する。毎回、活動の後に子どもたちが書く作文を綴った『文集ポランの子どもたち』No.1に谷内校長が記したポラン小学校とは、「自分たちで選んだ作物の種を蒔いて、育てて食べ、おみやげにして家へ持って帰る」「自分たちの力で暮らしをつくり、力を合わせる」「自然となかよくし、友達となかよくする」ところである。これらは農作業をするなかで確実に培われる生きる力といえる。

子どもたちは班に分かれて活動するが、自主性を尊重し、作業の進め方や役割分担も子どもたち自身で決める点がポイント。「作業を分担したら、全体の流れがわからないよ」という意見もあり、それについても討議した。グループ名も送迎バスの乗り方のルールも子どもたちで決めたという。

とはいうものの、事前の準備は大変。天候はどうすることもできないが、ソバ打ちや漬物や豆腐づくり、農業祭のときなどは常勤のスタッフだけでなくJAの女性部や青年部、農家の人たちも応援。たとえば、11月に行われた味噌づくりの授業では味噌づくりのベテランである女性部員がこの日の教室となる湯田町の農村景観活用交流施設「ふれあいゆう星館」に朝早くから詰めていた。事前に洗って水に浸けておいた大豆14キロ、麴16キロ、塩8キロを用意。大豆を煮たり、材料を班ごとに分けたり大忙しであった。大豆は子どもたちが育てた分だけでは足りずJAが支援。費用を安く抑えるための工夫も必要なのである。女性部員はもちろん、子どもたちに味噌づくりの指導もする。子どもたちは「みそ汁大好き」「味噌ってこうやって作るのか」と、楽しそうに大豆をつぶしたり味噌玉をつくったりしていた。この味噌は来春、食べられるという。

ポラン小学校の活動の拠点は旧湯田町立左草小学校下前分校とその周辺の田畑。子どもたちは盛岡地区と西和賀地区から参加。盛岡地区の子どもたちは送迎バスを利用している。バスの送迎には生協の職員が付き添う。

参加者はいわて生協と西和賀地区で募り、毎年30～40名が参加。参加費は1人月3,000円となっている。

◆成果と今後の課題

「農業体験を通して自然や食べ物の大切さ、命の尊さを知る」という当初の目的は十分に果たしている。子どもたちの作文には「1/4の種イモから14個のジャガイモが採れた。これは56倍になったということ」「田んぼの水は下水かと思っていたけれど、きれいな水だった。最初は入るのがいやだったけれど、入ってみたら温かくてきもちがよかった」「一粒のモミからいくつのお米が採れるか楽しみ」など農作業を通じての新しい発見と感動が記されていた。これらはバケツ稲ではなく1年間を通じた農作業だからこそ得られた体験といえよう。

「この体験で、子どもたちが食べ物や農業に関心をもってくれれば、ポラン農業小学校の意義のひとつは達成されたといえます」と、JAの高橋弘参事。

また、「もう一つの学校」という意味でもかなりの成果がみられる。子どもたちは農作業を通して仲間意識を育み、共同の喜びを体感。また、体を使ってモノをつくりだす楽しみを知り、たくましくなった。自主性も身につけてきた。夏祭りでは子どもたちがこの地域の伝統芸能を披露するなど地域との交流も深まってきている。

授業に参加した親たちの評判もよく「子どもが楽しみにしているのがよくわかる」「農作業をしていると、時間がゆっくり流れる」「地元（盛岡市）では体験できないことが体験できる」「子どもがたくましくなっていくのがわかる」などの感想が寄せられた。

ただし、地元からの参加は送迎バスがないということもあり、せいぜい3～4名で、農業後継者をつくるという目的は果たしているとはいえない。さらに、子どもたちが多忙なため欠席者も少なくない。これは盛岡地域を巡る送迎バスの乗車時間が長いことも原因のひとつになっている。ポラン農業小学校を卒業した子どもたちの扱いをどうするかということもこれからの課題のひとつだ。

しかしながら、ここ数年、この地区にもIターン農業者が誕生している。ポラン農業小学校の試みをきっかけに子どもたちとその親、そして農業従事者が農業の付加価値に気づいてくれれば、農業のあり方、農業に対する考え方も変わっていくと思われる。この取り組みが一つの事例となり、他のJAや市町村に広がるのが主催者たちの願いだという。

資料1：ポラン農業小学校計画（平成11年1月いわて生協作成）

1. はじめに

いわて生協は、1993年にそれまでの子育て協同の実践と調査をふまえて「協同の力で生きる力を育てる教育を」という政策をつくり、多面的な子育ての取り組みを行ってきました。

子育てについての組合員アンケートでは、農業・産直・自然と親しむ企画への期待が寄せられています。一方、わたしたちが生きていくうえで欠かせない食の源である農業は、後継者難や経営の困難さで「存亡の危機」ともいえる状態です。

今回、子どもたちが、農作業体験や自然の中で思いっきり遊ぶことを通して、作物や生物が成長する姿にふれ、命の大切さを学び、自分たちで運営することによって自立と生きる力を身につける試みとして「ポラン農業小学校」を始めます。

2. ポラン農業小学校のめざすもの

- 1) 自分で食べるものを種から育て、実際に食べてみる活動を行ないます。
- 2) 子どもたち自身の自治の力で学校を運営し、困難を乗り越え、協同の力を養います。
- 3) 自然の中で思いっきり遊ぶことを通して、人間や自然との交流をはかります。
- 4) 活動全体を通じて、命の源である農業の大切さと、それを営む人々が安心して暮らすことのできる自然環境を保全することの重要性を学びます。

3. ポラン農業小学校の精神

テーマ：みんなのねがいに基づいて運営される学校

- 1) こどもの要求を大切にします（関与権）
父母の要求を大切にします。
- 2) こども・父母・スタッフの合意の基に運営します。
最終的にはスタッフの合意によるものとします。（決定権）

4. ポラン農業小学校の実施要綱

- 1) 名称 ポラン農業小学校
- 2) 主催者 いわて生活協同組合 滝沢村土沢 220-3 TEL019-687-1321
西和賀農業協同組合 和賀郡沢内村大野 12-150 TEL0197-85-3301
後援 岩手県民間教育団体協議会・岩手生活指導研究協議会・岩手県教職員組合和賀支部
- 3) 校舎・農場 旧湯田町立左草小学校下前分校校舎及び周辺
- 4) 参加対象 小学生
- 5) 実施要綱
 - ①開校期間 4月第4土曜日開校～3月第4土曜日学校じまいの会まで、
毎月2回（第2・第4土曜日）通年19回開校
 - ②交通手段 送迎バスが盛岡市内数カ所巡回 盛岡以外の子どもは親が現地まで送迎
 - ③参加形態 子どもだけの参加が基本です。年数回親の参加を案内します。
 - ④参加費 子ども一人毎月3000円（専用振込み用紙で毎月末までに振込み）
- 5) 運営組織
校長 谷内博司（いわて生協学識経験者理事）
農場管理者 西和賀農業協同組合
教務担当 高橋清（元 湯田町左草小学校教員）
自治担当 鈴木昭一（岩手大学非常勤講師）小野寺武男（全国生活指導研究協議会）
スタッフ 高橋弘（西和賀農協参事） 真嶋実（西和賀農協営農指導担当）
丹野俊一（いわて生協子育て協同担当）
講師 佐々木寛（西和賀農協組合長） 蕎麦打ち 斉藤文人（教員） 川遊び
須川直義（博物館職員） 貝沢の植物 菅原定之（元貝沢小校長） 星の観察
高橋正博（教員） スキー教室 高橋昭男（元教員） 技術・生活指導
佐々木宏記（教員） 生活指導 中井伸一（教員） 生活指導
他 ボランティア参加の教員・地元のみなさん

資料2：年間活動カレンダー（平成14年度）

ポラン農業小学校年間計画

日程	主な農作業	自治活動	備考
①4月27日（土）		友達と仲良くなろう 班づくり・班紹介・班会議・ 総会・開校式の準備	
4月28日（日）	開校式		父母参加
②5月11日（土）	じゃがいも・大豆・さ やえんどう・とうもろ し・かぼちゃ等作付け	ぶんぶんこま 沢内甚句の練習	氷室で保存していたじゃ がいも おやつで食べる
③5月25日（土）	田植え		
④6月8日（土）	大豆・さつまいも・メ ロン・すいか作付け	山菜採り ひまわりの種播き	
⑤6月22日（土）	畑の草取り・田の観 察・山菜採り	マジックスクリーン 折り紙染め	
⑥7月13日（土）	草取り	沢内甚句練習	
⑦7月27日（土）	じゃがいも試し掘り	川遊び・みるきいうえ い（宿泊）・沢内甚句 抽選	みるきいうえい
7月28日（日）	朝食・閉会式で解散		父母参加
⑧8月24日（土）	じゃがいもの収穫		
⑨9月14日（土）	かぼちゃ・すいか・め ろん・枝豆・とうもろ こしの収穫	大根の種播き	
⑩9月28日（土）	稲刈り・大豆収穫	輪ゴム鉄砲づくり	
⑪10月12日（土）	豆腐づくり		
⑫10月26日（土）	西和賀農協さん農業祭 に終日参加		
⑬11月9日（土）	みそづくり・大根掘り		
⑭11月23日（土）	大根1本漬け		
⑮12月14日（土）	餅つき		
⑯1月25日（土）	スキー		父母参加
⑰2月8日（土）	そば打ち	紙すき	父母参加
⑱2月22日（土） ※3月8日は休校	ウイナーソーセージ づくり		父母参加
⑲3月22日（土）	学校じまいの会		父母参加

資料3：ポラン農業小学校 子どもたちの活動組織（平成14年度）

2002年

ポラン農業小学校 村と人々

2002. 4. 28現在

	ニコニコ村	さくもつ村	自然村	元気村
村の 決めごと	<ul style="list-style-type: none"> ・自然とふれあう！ ・けんかをしないで仲良くする！ ・けじめをしっかりとつける！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふざけないでまじめやろう！ ・みんなが協力して良い村にしよう！ ・さぼらないできちんとやろう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物をいっぱい作る！ ・去年より多く野菜を作る！ ・協力し合う！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫が多くなるように頑張って働こう！ ・丈夫に作物を育てたい！ ・仕事をさぼらないようにしよう！
村長	藤村果央・附属・6年④	渡辺綾子・上田・6年②	吉田おみ・中野・6年③	藤原純平・附属・6年②
副村長	藤原 碧・附属・4年③	本間映里・上田・6年①	鈿- 純香・徳田・6年①	工藤航平・青山・5年②
村人	<ul style="list-style-type: none"> 吉田眞子・附属・4年① 照井寿英・磐石・5年② 反町耕平・滝2・4年① 中嶋 悠登・北松・4年② 立花 蘭・附属・2年① 吉田周平・附属・1年① 富樫直樹・上田・5年① 	<ul style="list-style-type: none"> 阿部 涼・月丘・5年③ 松本 麗・上田・4年① 藤田有紀・中野・3年① 福井文望・附属・2年① 畑中善彦・附属・2年② 杉江一磨・月丘・4年① 	<ul style="list-style-type: none"> 浜口拓也・月丘・5年③ 阪本 翔・上田・4年③ 高橋理和・古館・4年① 高橋瑠璃・川尻・3年③ 佐藤華子・附属・2年② 高橋韻人・北松・2年② 	<ul style="list-style-type: none"> 岩崎鉄好・館谷・5年① 平 佳織・滝沢・5年① 藤沢千裕・附属・4年① 佐藤颯介・附属・4年③ 池田翔子・神郷・3年① 藤原君平・附属・2年② 柏良之輔・附属・1年① 森 夏美 滝2・5年①

資料4：1日の活動の流れ（平成14年度第1回学校開きの会）

ポラン農業小学校

学校開きの会

日 程

- * 4月27日（土）
- ・ 9：30 スタッフ会議（日程確認・内容確認・任務分担・準備など）
 - ・ 10：20 バス到着（靴箱・持ち物は控室へ・トイレタイム・会場作り）
 - ・ 10：40 校舎案内・顔合わせ（挨拶・名札渡し・スタッフ及び親紹介・連絡）
 - ・ 11：00 遊び（体と心ほぐし）「友だちになろう」（体育館）
 - ・ 12：00 昼食（ホール）・休憩
 - ・ 13：00 村づくり（ポランの学校とは・村づくり ―数、村長決め等）
 - ・ 14：00 村長会議①（学校のめあて、きまり原案づくり）
 - ・ 14：30 全員会議①（村編成についての確認と決定）
 - ・ 15：00 村活動①（副村長・村のめあてと約束・村名・村紹介練習・校歌）
 - ・ 16：15 巣箱がけ・掃除
 - ・ 17：15 バスで移動（学校と焼肉ハウス往復 ― 夕食と入浴）
 - ・ 19：15 全員会議②（学校開きリハーサル・村活動②村の紹介練習）
 - ・ 20：15 感想文
 - ・ 20：30 村長会議②（反省と明日の準備）
 - ・ 21：00 就寝 （21：30親の会）
- * 4月28日（日）
- ・ 6：00 起床・洗顔・荷物整理・朝食準備
 - ・ 7：20 朝食・後かたづけ・会場準備
 - ・ 8：20 学校開きリハーサル（村ごと・全体）
 - ・ 9：00 ポラン農業小学校学校開きの会・休憩
 - ・ 9：40 掃除・終わりの会
 - ・ 10：10 感想文 ・ 10：45バス出発

スタッフ

- | | |
|------------------|-----------------------|
| *校 長 谷内 博（いわて生協） | *農業指導 高橋 弘（西和賀農協） |
| *教務担当 高橋 清（元教員） | *生活指導 丹野 俊一（いわて生協） |
| *自治担当 鈴木 昭一（岩大講） | 小野寺武男（生出小） 高橋 昭男（元教員） |
| 中井 伸一（滝二小） | 佐々木宏記（南股小） 齋藤 文人（照岡小） |
| 高橋 正博（黒東小） | 児玉 功（湯本小） |
| *観察指導 菅原 定之（元教員） | 須川 直義（元教員） |

資料5：ポラン農業小学校校歌

校歌

ポランの広場

(作詩・作曲) 宮沢 賢治

* つめくさの花の 咲く晩に

ポランの広場の 夏祭り

ポランの広場の 夏の祭り

酒を吞まずに 水を吞む

そんなやつらが でかけてくると

ポランの広場も 朝になる

ポランの広場も 白ばれる

* つめくさの花の かおる夜は

ポランの広場の 夏祭り

ポランの広場の 夏の祭り

酒くせのわるい 山猫が

黄色のシャツで 出かけてくると

ポランの広場に 雨がふる

ポランの広場に 雨が落ちる



資料6：ポラン農業小学校文集（平成13年度第10回の文集から）

文集 ポランの子どもたち NO.10

さつまいも掘り・枝豆収穫 わたあめ作り



—2001・9・22(土)—

ポラン農業小学校

資料9：ポラン農業小学校の活動風景

